日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所　地方会ニュース編集事務局
〒　470－11
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪１－98
藤田保健衛生大学医学部公衆衛生学教室内　電話（0562）93－2453
FAX（0562）93－3079
発行責任者　竹内康浩・島　正吾

（題字　皿井　進筆）

晩秋初冬の富士（芦の湖より）

新　春　雑　感

後　藤　　猛（労働衛生コンサルタント）

平成８年を迎えて、島理事長の再任と、会員皆様の御健勝を心からお慶び申上げます。昨年は名古屋市に於て第24回日本医学会、そして第68回日本産業衛生学会が開催され、私もせっせと会場に足を運びました。（いえ、決して勉強したとは申しません。）ヤマハの産業現場を離れて凡そ１年半の私にとりまして産業衛生とのつながりは、スーパーマーケット、ゴム関連の会社、アルミサッシュ製造の会社の嘱託産業医として年数回（中々毎月とは参りかねます。スーパーだけは月２、３回）の訪問、監督署へ提出の書類へ署名などですが、縁あって１昨年10月より日赤浜松血液センターのお手伝いをすることになり、献血者の問診、血圧測定、血液検査の結果をみて採血の可否決定を致しておりまして、産業衛生との関連を思います。血色素量11.5g/dlの女性に「貴方にとって貧血という訳ではないけれど、人様に血をあげるにしては一寸うすいの」と云って、標準値11.2～14.9の表を示して説明したり、（因みに献血は12g/dl以上、400ml献血は12.5g/dl以上）、最低血圧50mmHg以下の献血者には「血圧が低いのは午前中のせいだと思うの。浜松駅の献血ルームでは午后５時半までしているから一度そちらへおいで下さるようお願いします。」などと話している看護婦の説明に感心しております。これも亦縁あって時々健診機関のお手伝いをしておりますが、改めて心音や心電図の勉強やらと大変です。昨年、一昨年など過去のデーターについての受診者の質問には、血液検査については一応の説明は出来るものの、ミネソタコード、６－４－６、やら、８－３－３、やらとなると種本のお世話になります。「変な咳が出るので肺癌が心配だ」という男性がありました。「医者は大丈夫だと云うけど昨年、一昨年よりも変った咳だ」と云います。毎年のレントゲン写真と比べて見てもらったら、と申しますと、胸のレントゲン写真なんて、ここ数年とったことないと云います。安全衛生の担当者か、健保組合にきいたらと申しましたが、聊かやり切れない思いでした。

さる日、粉じん測定の「管理区分第２」がつづいて、衛生管理特別指導を受けたバスタブ製造工場へまいりました。じん肺健診は全員「管理Ⅰ」でした。防塵マスクの着用を今後も続けるようにと話して帰りましたが、しみじみ不勉強を思い知らされました。

新春、病後の老骨に鞭うって今暫くは産業衛生の勉強をと覚悟している所です。

新　春　随　想

産業・交流分析　さしすせそ

芦　原　　睦（中部労災病院）

さ　産業の現場で
し　心療内科と連携をとりつつ
す　すぐに使える（交流分析）
せ　施行しやすいSGE（自己成長エゴグラム）
そ　相談業務にも活かせる

この種の原稿は、インパクトがないと読んで頂けないものです。実際、私自身も本稿を依頼されるまで、読んだことはありませんでした。しかし、「心療内科や著者の宣伝をしてもいい。」との甘言にのせられて、最近考えた語呂合わせをご披露することにしました。これまでに、「頭打つ　患者の数は　頭打つ」や「クーラーの　温風あびる　時間外」など職員に関する川柳を詠んだことはありましたが、上記のような語呂合わせは始めての試みです。

何のことか、ご理解頂けない場合は、下記の研究会にご出席頂いたり、拙著を読んで頂きますと幸いに存じます。

職場におけるストレスに関する諸問題は増加し、メンタルヘルスの重要性も益々高まっています。労災病院の心療内科という立場から、今後も本学会に積極的に参加し勉強させて頂くつもりです。

〈心身医学関係の学会・研究会〉
1月26日　名古屋心身医学研究会
3月23・24日　交流分析学会中央研修会（於；中部労災病院）
4月6日　東海TA研究会
5月18日　日本心身医学会中部地方会及び講習会
（於；エーザイホール）

〈拙著〉「かしこい医者のえらび方」　リバティ書房
「自分がわかる心理テストPart1,2」　講談社ブルーバックス
「心でおきる身体の病」　講談社ブルーバックス

職場における喫煙対策を

城　　憲　秀（名市大・医・衛生）

近頃、喫煙に対する社会の関心がますます増加して、公共施設等での分煙、禁煙が進んできました。喫煙者にはさぞ住み難い世の中になってきたものと思います。昨年の産業衛生学会総会でも、喫煙に関して13報の発表があり、職域においても喫煙防止、非喫煙者保護に対する関心は高まっているようです。改めていうまでもなく、喫煙も癌をはじめとする成人病発症の重要な危険因子であり、また、他の多くの疾病にも関与することはご存じの通りです。世界的にみれば、毎年300万人がタバコが原因で死亡していると推測され、さらに、国際疾病分類10回修正では精神・行動障害の中にタバコ使用がアルコールや他の薬物使用とともに収載されました。これは常習的なタバコ使用それ自身が他の薬物依存と同様に疾病であることを意味しています。

このような状況の中で、禁煙・喫煙防止が成人病等の疾病予防に有効な対策であることが認識され、WHOもタバコに対する行動計画を策定し、世界各国に対策の立案と実行を呼びかけるようになりました。わが国でも昨年タバコ行動計画に関する諮問委員会の答申がなされ、積極的（？）なタバコ対策の実施に向けた準備が進められようとしています。前述のように最近では職域においても喫煙対策を考慮する事業所も増加してきています。しかし、積極的に喫煙への対応を行っている職場というのはそれほど多くはないと思われます。

喫煙を疾病とするならば、喫煙を促進するような要因の一部が職業中にあるとき喫煙は作業関連性疾患といってもよいわけです。そこまで言わなくとも、成人病予防が職域においても重要な課題となった今、喫煙対策もまた職場において鋭意推進していかなければならないものと思います。労働衛生領域で活動している皆さんもぜひ、禁煙・喫煙防止活動にいっそうのご努力を!!

セルフコントロール

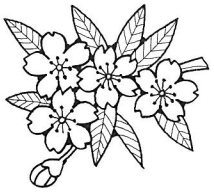
水　野　洋　子（明治生命）

病院勤務医から企業勤務医に転属して早10年が経過してしまいましたが、この間保険会社の社医業務並びに診療所長として診療及び管理職務さらに産業医職務と3足の草鞋を履いてきたことになります。

当初は全くの別世界に飛び込んだという印象が強く、折しも金融界は激動の時代を迎えて社医職務も多様化し、健保関係では診療所の予算削減・医療費削減・健保法改正、労働衛生面では法令改正・新通達発布・産業保健の新構想等と目まぐるしい変革があり、おかげで金融界の仕組みや行政・臨床的判断と労働衛生的判断とのギャップ等医療医学以外の領域を垣間みることが出来て結構楽しんできたものの、産業医活動を企業内で実践・普遍化するにはなかなか厚い壁があるものだとつくづく実感しています。とはいっても会社の表向きの姿勢や理解度は比較的良好で職員の健康情報管理体制もしっかりしている方ではと思いますが、如何せん実践や個別対応となると職員側も会社側も産業医側も不十分です。特に職員自身の認識不足と無理解、全国に80数名いる産業医の意欲はまだまだ改善の余地があります。

当社は有害危険業務職種ではありませんので、職員が健康を害する病因は悪ライフスタイル・ストレス関連が殆どです。管理疾患でいえば成人病が8割方占め、正しい知識と自己認識・本人の意志さえあれば無駄な発症や入院、医療費の浪費、休職、死亡、同僚への負担を予防できるのにとしばしば残念に思い短気な私はイライラが募ります。自らも含めメンタルヘルス対策も悩みの種です。ともすると健康障害を会社や仕事・上司のせいにしがちですが、どうも最近私も含め当社の職員には“他人にきびしく自分に甘い人”が多いような気がしてなりません。

“管理”や“指導”といった言葉は好きではありませんが、今年もセルフコントロールをキーワードに老年者から若人までスタッフ共々気長にお付き合いすることになりそうです。



ショパン・フォーラム

土　屋　眞知子
（静岡県産業環境センター）

是正勧告を受けた事業場の担当者にこう言われた。「申し訳ないが、作業環境測定結果の記録表の所見に解説文を添けてよ。監督署に注意されて改善したいけど、何をどうしていいか？御宅の所見を読んでもさっぱりわからんのだよ。遠州弁だと最高だけどネ。」

率直な要望に多少困惑はしたが、一人よがりの所見であった事を知る機会を得て、私は素直に反省をした。

専門用語を日常会話につい使ってしまい、相手の印象を悪くした経験は誰にもあると思うが、私の場合は特にひどいらしい。友人が私にこう言った。「話の内容は興味深いけど、字幕のない洋画を見ているよう。まあもともと変な人だから許せるけど何とかならないかしら。」撹拌・沈殿・燃焼・分解・拡散・透過・抑制・オーバフローにコンタミつい出てしまう。言葉の職業病とも言うべきか。

気を付けていたつもりであったが、仕事でも苦情が出てしまい悩んでしまった。そんな時、久しぶりに友人とピアノのリサイタルに出かけた。晩秋の夕べ、清水和音さんのショパンソナタ第3番　ロ短調作品38に深く感動を覚えた。と、その時又あの病気が……

ピアノのフローコーター、スチレン、ハンマーダンパー付け接着工程、響板塗装、調律、フレーム塗装等、頭は改善項目が渦巻いていた。アンコール曲の時は、ホールの工事で亡くなった人の事を思い出していた。帰り道、友人が私の顔を見て「また変な事考えていたんじゃないの？」と聞いた。「ピアノソナタに感激しているに決まっているじゃない」と返事はしたが、「実は製造工程の環境改善を考えていたの」とは、とても言えなかった。友人の疑いの視線を感じつつ、感性までも職業病にかかっている自分に呆れていた。

女性問題について考える

村　田　真理子（三重大・医・衛生）

「女性問題」というと、いささか　いかがわしい話とお思いの方もおありでしょうが、三重県には「女性問題協議会」という委員会があります（あらぬ誤解を招く恐れがあるからか、平成7年からは男女共同参画推進委員会と改称されましたが……）。この委員会の目的は、男女が共に職場、地域、家庭のあらゆる分野において平等に社会に参画し、かつ、誰もが生き生きといきることをめざしていこうというものです。メンバーは、種々の分野から選ばれていますが、その大半が女性です。かく言うわたくしも委員のひとりに加えていただいておりますので大きな声では言えませんが、委員会の主旨からすれば、男女の比率は半々であるべきでは？と思っています。しかし、現実はまだまだ男性優位社会であり、弱い立場の女性の声を社会に届けようとすれば、必然的に数を増やさざるを得ないということのようです。

職場にも、働く女性が増え、女性管理職が登場するようになってきました。しかし、労働市場が下す女性への評価は未だ低いのか、今春の女子学生就職率は「超氷河期」と表現されるお寒い状況です。また、女性の労働力率曲線は、子育ての期間に低下する、いわゆるM字型曲線を未だにたどっています。「男は仕事、女は家庭」という従来の役割意識から、「男は仕事、女は仕事と家庭」という新しい意識へ変わりつつあるともいわれており、これではその過重負担に女性が悲鳴をあげるのも当然でしょう。労働分野におけるこれらの問題も含め、多くの男女不平等の問題は、女性のみの問題ではなく、実は男性の意識や行動に基づく「男性問題」も多いのではないでしょうか。男性の中にも、自ら育児時間を取り、子育てにも積極的に参加しようという人達もいますが、少数派です。職場でも男女が共に意欲的に働け、家庭や地域活動にも共同参画していける社会が早く実現することを新しい年に期待したいと思います。

改組に揺れる研究所

柴　田　英　治（名大・医・衛生）

昨年10月始めからスウェーデンのソルナにあるNational Institute for Working LifeのToxicology部門のDr.G Johansonのもとで勉強しております。新春を迎え、この一年は留学中でもあり、研究面で大きな飛躍ができたらと思っております。

研究所の名称がやや耳慣れないと感じられるかも知れません。この研究所は昨年7月にそれまでの名称だったNational Institute of Occupational Healthから上記の名称に変わりました（Scand J Work Environ Health 1995； 21： 395)。この改称は現在も進行中のこの研究所の改組と密接に結び付いています。私がこちらに来て以来、この改組の話題を聞かなかった日が珍しいほど研究所内では大きな関心事となっており、この問題を検討する会議も頻回に開かれています。詳しい内容はよくわからない点もありますが、労働に関連する雇用問題、経済問題など社会科学的研究をより重視する一方、労働衛生関連部門を縮小する方向で検討が進められているようです。

研究所の図書館で雑誌をみていたところ、アメリカでNational Institute for Occupational Safety and Healthの実質的廃止が検討されていることへの非難の文章がAmerican Journal of Industrial Healthの巻頭に載っているのを見つけ、少し驚きました（Am J Ind Med 1995；28： 457-458)。

世界的に有名なこの分野の2つの研究所が相次いで転機を迎えていることが単なる偶然なのかどうかはわかりませんが、いずれにしても世界の産業保健研究に少なからぬ影響を及ぼす可能性もあり、我々も無関心ではいられないところです。

今はインターネットもファックスもあり、スウェーデンにいても日本があまり遠く感じられなくなっています。日本での学問と実践の活動の重要性をあらためて感じるとともに世界の動きにも注意しつつ、この1年、私自身は何を発信するのかを考えたいと思っています。

東海地方会学会を担当して

伊　藤　宜　則　（藤田保衛大衛生学部公衛）

平成7年度の日本産業衛生学会東海地方会学会は、大変好天に恵まれた11月18日（土曜日）に、新築の愛知県がんセンター、国際医学交流センターで約120名の参加者を迎えて開催され、午前は24題の一般演題発表、午後は3題の講演が行われました。一般演題発表開始時は、会場が交通の便のやや悪い愛知県がんセンターであり、参加者の心配があったが、座長の先生をはじめ参加諸先生方のご配慮もあり、終始活発な論議が展開された。一般演題は、健康管理に関するものが14題（THPに関するもの5題、精神衛生に関するもの5題、その他4題）、有害物に関するもの4題、振動に関するもの2題、その他4題が報告された。特に、THPに関する報告は、数年間の実地調査から得られた運動機能検査基準値の設定、脂質成分値などの改善などTHPの具体的な評価の報告がなされた。また、有害物の生体影響以外にも看護の作業負担とメンタルヘルスに関する産業保健婦の報告も目立ち、さらに、地域産業医の活動や海外の労働事情など産業保健の幅広い議論が展開された。

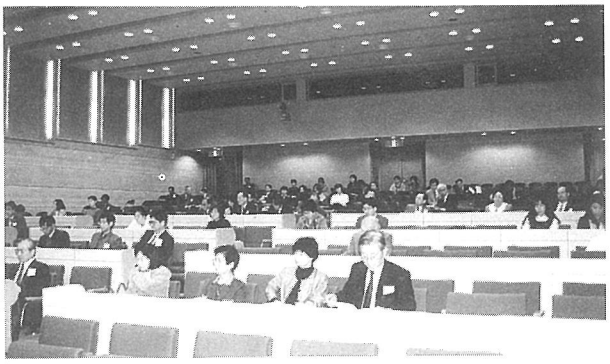
午後は、理事長島正吾先生、地方会長竹内康浩先生のご挨拶の後、教育講演として、佐々木隆一郎先生（愛知医大、産業保健科学センター教授）が『微量暴露要因の疫学的追跡』と題して、産業医学領域における疫学的調査の具体的なデザイン、特に調査目的、対象設定、調査方法、解析方法など、それぞれ実例を上げた実際に即応できる教育講演をして頂いた。また、特別講演として、吉川博先生（元岐阜大学医学部長、北里大学客員教授）が『産業医学領域における健康管理』と題して、層理論と地理論からの健康の考え方、人間性を重要視した労働の人間化、経営管理と健康管理の一体化など、人間性を充分に踏まえ吟味された健康管理の在り方を、格調高く、今後の目指すべき指針を熱弁して頂いた。後日の先生の手紙に、『実験屋の私が今回は良く勉強させて頂いた。』とある如く、館先生（岐阜大学元学長）をはじめ多くの諸先生方が最後まで拝聴しておられた。最後は、会長講演として、私が『某事業所従業員の栄養学的調査研究』と題して長年、故皿井進先生のご指導、ご支援を頂き、かつ、多くの諸先生方との共同研究として行われた鉛暴露作業者の調査成績について報告させて頂いた。

学会は、新築の素晴らしい会場で私共の大学の諸先生のみならず、大同産業医学研究所の諸先生、愛知医科大学の諸先生、がんセンターの諸先生にもお世話を頂き、さらには、ご講演および司会や座長の労をお取り頂いた諸先生、ご報告、ご参加頂いた数多くの諸先生方によって、誠に盛会裡に了えることができました。ここに、各諸先生方に対しまして、心より厚くお礼申し上げます。

（吉川　博先生）

（佐々木隆一郎先生）

（伊藤宜則学会長）



愛知県がんセンター（国際医学交流センター）

特集　大震災時の健康管理

（平成7年度愛知県産業医懇談会研修会）

愛知県産業医懇談会と専属産業医の全国組織であるサンユー会は『大震災時の健康管理を巡って　～その時、産業医はどのように取り組んだのか　今後、どう対応したらよいのかを実体験から提言する～』というテーマで、平成7年12月11日に丸栄カーネーションセンターで研修会を共催しました。

阪神大震災が社員の心とからだにどのような影響を与えたか、また産業医を含めた企業内産業保健チームは何如に対応したかを、岡田邦夫先生と、横田雅之先生をお招きし、ご講演いただきました。（山田琢之）

大震災時の健康管理を巡って

岡　田　邦　夫（大阪ガス）

平成7年1月17日の大震災は、生活を支えているいわゆるライフラインが途絶し、都市ガスについては、過去最大の86万戸の供給が停止されるに至った。復旧作業は全国からの応援を得て、すぐさま開始されたが、9000人にも及ぶ復旧作業員を動員する大事業においては、種々の健康管理上の課題が予測され、また事実多くの問題点が生じた。

1．産業保健活動

産業保健活動は環境管理対策と健康管理対策を柱としてその施策をすすめた。環境管理面では、職場巡視により換気、粉塵、温度、湿度対策、また、宿泊施設の環境整備に関する指導を実施した。また、各地の復旧対策基地に対して、禁煙、分煙などをすすめた。一方、健康管理対策においては、健康管理の啓発活動として、ポスターの掲示やうがい薬の設置、救急薬品の配布、ならびに復旧対策本部に健康相談所を開設し、種々の健康相談のみならず、一般診療や専門医の紹介などを積極的に行った。また、各地に散在している対策基地に巡回健康相談班を順次派遣し、その業務にあたった。健康相談受診者は、復旧修了まで、延べ1458名で、主に呼吸器感染症が中心であったが、花粉症も多くみられた。

また、食事に基づく身体の異常を訴える従業員も復旧作業が長期化するに従って増加してきた。当初より、栄養管理面における対策（果物、野菜ジュース、牛乳、健康食品などの補給）は順次とってきたが、選べない弁当はいたしかたないとしても、選べる食品を前にして選ばない行動が一部にみられたことは、普段の健康教育がいかに重要であるかを示唆していた。さらに、その後、自動販売機を各基地に設置し、温かい飲み物を提供した。

2．産業保健スタッフ及び人事労務担当スタッフとのチームワーク

復旧作業員の健康管理対策は、産業保健スタッフが一丸となって取り組んだが、種々の対策の実施に際しては、人事労務担当スタッフとの緊密な連係プレーが必要であったことは言うまでもない。また、現場における種々の対策の実践において、権限委譲がなされていたことも活動が円滑に進んだ理由の一つである。日頃のコミュニケーションが十分なされていることが、緊急時に必要な対策を迅速にかつ機動的に実施する上で重要であることが再認識された。

今回の大震災は始めての経験であっただけに、その対策と実践を通して多くのことを学ぶことができた。災害時マニュアルも必要ではあるが、それ以上に組織として、チームワークを保って取り組むことの重要性を感じた。

防災管理における産業保健チームの役割

横　田　雅　之（川崎重工兵庫）

今回の大震災について、震災後に私個人と企業が行った事、その反省、被災従業員の状況、防災管理マニュアルはどうあるべきか、その中での産業保健チームのあり方について若干の考察を加えて述べた。

産業医としては、翌々日までは安否確認や診療所復旧しか行えず、診療、他の事業所の応援、地域支援は4日目以降となった。この際、医師会との連携、周辺地域の救急医療への対応、被災従業員への対応に反省すべき点があった。企業としては、防災管理規定の不備、長時間通勤対策、非定常作業に対する安全衛生管理に問題があった。地域支援も、工場が被災したこともあり不十分であった。

家屋半壊以上の被災従業員は、当工場で110名（全従業員の1割強）で、家族の死亡が2名あったものの本人の死亡はなかった。震災後3カ月位までは、不眠や有病者の症状悪化が見られたが、アンケート調査から現在でも住環境や経済的負担などの問題を抱える従業員が少なからず見られた。

防災管理マニュアルについては、実際上マニュアル通りには行かないにしても必須のものであり、特に訓練、行動基準、通信手段、対策本部の作業負担が重要と考えられた。これらマニュアルの内容は企業活動中心であるが、家族の安全確保に対して配慮を求める意見がアンケートの中で多かった。

企業の防災管理体制における産業保健チームの役割については、アンケート調査から、震災後の健康管理や健康相談に期待する意見が多かった。また、企業の防災管理規程における安全衛生・健康管理その他の規程作りへの参画も重要と考えられた。産業保健チーム自体のマニュアルも必要であるが、マニュアルの内容としては災害直後の行動基準、救命救急処置も含めた訓練、健康相談体制、非定常作業に対する衛生管理等災害後の経過日数に応じた対応が重要であると考えられた。

防災管理にはマニュアルが必要であるものの、実際の災害時には完全には機能しないが、この時には現場サイドでの判断が重要なものとなる。これを有効に行うには、日頃より社員1人1人が企業の業績に対してと同様に今後起こりうる災害に対しても、危機感を共有した上で教育・訓練を行っていくことが重要である。また、企業の中で特別視されがちな産業保健チームのあり方については、例えば健康管理も品質管理のひとつであり共通の目的を持って仕事をしているという認識を産業保健チームが持ち、積極的に人事・総務部門や生産部門に働きかけて行くことも重要である。具体的には、分かりやすい報告書をこまめに提出することもひとつの方法である。

最後に、本報告が今後起こりうる災害に対して対策を考えられている産業保健関係者に少しでも参考となれば幸いである。

話　題

チェックリストをめぐる話題

坂村　修（名市大・医・衛生）

産業衛生のスタッフにとって、職場の作業状況・環境条件を常日頃から把握することは必須事項であるが、これを把握する方策として、チェックリストの利用がある。ところで最近、このチェックリストをめぐって変化が生じている。

従来の職場チェックリストは職場の問題点を探し出すにとどまる、問題提起型のものが多かった。しかし現実にはこの方法では問題指摘のみにとどまり職場の改善へとつながらないことが多かった。そうした問題点を解決し、職場改善を推進するツールとして対策指向型のチェックリストが提唱されている。

さて、このような状況を踏まえて去る12月1日に産業疲労研究会によってチェックリストエクササイズが東京郊外にて開催された。このエクササイズは対策指向型チェックリストをいち早く導入したILOのものを参考にして、チェックリストを作成し、これを現場で応用して、その妥当性を検証するものである。チェックリストの作成に当たっては以下の様な評価姿勢を以て作成するということが論じられた。

・先ず、実現しやすい対策を考案し、手の付けやすいところから対策を講じる。
・既に対策が講じられていても評価できる部分は評価する。
・不十分な対策でも、改善しようとする姿勢を評価する。

対策と言っても、巨額の投資を要したり、非現実的な対策を盛り込むことは、むしろ現場の当事者のやる気を殺いでしまうため、好ましくない。現場の当事者の協力が得られなければ改善を提唱しても効果は上がらない。従って、職場の改善には当事者の“やる気”を引き出し、発展させていくか、ということが必要となる。そのために、上記のような評価姿勢が職場の改善意欲を育て、発展させていくために必要となる。そして、現実には職場から産業衛生スタッフが敬遠されることさえ生じている現状にあって、このような評価姿勢に基づいて作成された対策指向型チェックリストがその改善の一助となることは論を持たない。職場改善は産業衛生スタッフと職場の当事者とが一体となって初めて達成される。そして、互いの協力は互いを先ず理解し、総合的に評価することから始まる。そのためにもこの対策指向型チェックリストは有用なものであるが、他に産業衛生スタッフのちょっとした発想の転換など、些細でも手軽に出来ることの積み重ねで、明日の職場の改善が達成される。

学会研究会

第26回　職業アレルギー研究会

吉田　勉（聖隷健診センター）

第26回職業アレルギー研究会は、平成7年12月2日㈯に東北大医学部基礎棟第2講義室で、東北地方会との共催で仙台錦町診療所の広瀬俊雄先生のお世話で開催された。当日は多数の医師会の先生方も出席されており、大変に盛会となった。特別報告として「職業アレルギー研究の到達点と課題」森本兼曇阪大教授が、また特別講演1「作業関連物質による自己免疫疾患研究の国際動向」を植木絢子川崎医科大教授、2「農薬中毒」を上田厚熊本大教授、3「皮膚疾患と職業アレルギー」を加藤泰三東北大助教授、4「肺疾患と職業アレルギー」を小西一樹仙台市医療センター部長が講演され、一般課題は3題出題され、いずれも活発な討論が行なわれた。

日本労働衛生工学会第35回学会

新谷良英（大同病院）

平成7年11月14日、15日の両日、日本労働衛生工学会第35回学会が広島市の広島厚生年金会館にて開催された。第1日目の午後に行われたシンポジウムのそのテーマが「作業負担の人間工学」です。このテーマは労働の諸形態の中での生理的負担を定量的に評価し、労働負担軽減や生産設備、作業方法を人間工学に基づいて設計段階から計画的に企画することを目的としており、これらの事を実行することは時代の要請でもある。今回は、自動車組立て作業に関連した作業負担を中心として、人間工学の基礎的な考え方、作業負担の研究の現状、現場作業の解析法、作業場で発生する筋骨格系の障害、視覚作業の負担などについて、専門家による講演が行われ、大変有意義であった。

東海地方会役員選挙結果

山田　琢之（日本産業衛生学会東海地方会選挙管理委員長）

「50音順・敬称略」

東海地方会長　竹内　康浩

本部理事　岩田　弘敏　小森　義隆　島　正吾　清水　善男　竹内　康浩

本部評議員

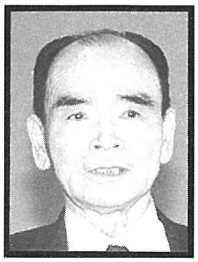
（愛知）
青山　光子　芦原　睦　飯田　英男　井谷　徹　出原　氾　伊藤　圓　伊藤　宜則
入谷　辰男　岩井　淳　荻田　佳子　小篠　築　小野雄一郎　柏木　時彦　加藤　昌平
加藤　竹男　加藤　幸久　加藤　亮　金谷　史子　栗田　秀樹　小林　章雄　近藤　正人
後藤円治郎　五藤　雅博　榊原　久孝　佐久嶋順平　柴田　英治　清水　高子　末次　勸
杉山　龍三　祖父江逸郎　城　憲秀　立川　壮一　巽　あさみ　谷脇　弘茂　土屋　博信
寺澤　哲郎　徳留　信寛　服部於菟彦　早川　律子　堀部　博　松本　忠雄　水野　洋子
宮尾　克　村山　尚子　森川　利彦　山田　信也　山田　琢之　山本　正彦　吉田　勉
渡辺美寿津　和田　晴美

（静岡）
稲垣　通子　井上　潔　臼田多佳夫　鎌田　隆　近藤順一郎　後藤　猛　斉藤　俊二
竹内　宏一　土屋きわ子　土屋眞知子　袴田　章二

（岐阜）
井奈波良一　加藤　保夫　川上　憲人　木村　英道　佐々木千早　清水　弘之　花井喜一郎

（三重）
石川　昭　木下　勝也　小西　泰元　中尾　一吉　村田真理子　山内　徹

森川利彦先生を惜む



森川利彦先生（享年72歳）ご略歴

森川先生は、大正12年９月21日に愛知県名古屋市でお生まれになり昭和23年３月名古屋大学医学部医学専門部をご卒業の後、昭和28年４月に三菱電機名古屋製作所で専属産業医として、現在まで現役で活躍されてきましたが、平成７年12月19日にご逝去されました（72才）。

先生は、昭和32年以来日本産業衛生学会評議員、東海地方会理事（昭和33年～35年常任理事）、昭和56年から平成５年までは東海地方会総務部長として、また昭和34年より愛知産業医懇話会設立に努め、同50年に同会の代表幹事として各方面に大きな足跡を残されました。これらの功績に対して、昭和32年には、愛知労働基準局長賞、昭和41年には緑十字賞、昭和53年には、労働大臣功績賞を受賞されています。

弔　辞

飯　田　英　男（健康管理コンサルタント）

森川利彦先生、先生のご霊前に、先生の思い出を語らねばならないときが来てしまいました。

森川先生は昭和28年に三菱電機株式会社名古屋製作所の産業医となられました。私は昭和29年に東海銀行の産業医となりましたが、当時手さぐりであった産業衛生を、昭和30年頃、名北労働基準協会の中に、衛生管理研究会ができまして、その中心になって私たち産業医や衛生管理者をお導きいただいたのが、森川先生でした。

以来40年、産業医学・産業保健の世界の先頭に立って、私たちをご指導下さいました。三菱電機のお仕事の他に、名北労働基準協会・愛知健康増進財団の健診事業を、中心になって推進されたのも、又、愛知労働基準協会の産業医関連事業を推進されたのも森川先生でした。有名な、コーネル・メディカル・インデックス（CMI）を、いち早く産業現場に応用されまして、祖父江逸郎先生と共に学会発表され、日本でのCMI研究のパイオニアになられました。

昭和31年12月に、故皿井進先生が日本産業衛生学会東海地方会の会長となられて、東海地方の産業衛生が飛躍的な発展をしたとき、大きな役割を担当されたのも、森川先生でした。学会の総務部長としてのご活躍、いま脚光をあびているメンタルヘルスについても、昭和37年には職場精神衛生研究会を祖父江逸郎先生と共に発足させて、その事務局長として多くの業績を築かれました。愛知県医師会産業医部会幹事、愛知産業保健推進センター産業保健相談員など沢山の肩書をお持ちで、先生のご業績は、あまりにも多くて数えきれません。

三菱電機の産業医として、働く人々の健康をまもられた先生は、集団としての三菱電機の安全衛生と共に、従業員ひとりひとりの、身体的・精神的・そして社会的な面まで、トータルに把握して、健康管理・健康相談をすすめられました。従業員の家族や地域社会のことまでかんがえられて、「私は何でも屋です」といわれておりました。誠に、産業医の模範でいらっしゃいました。

森川利彦先生、ご多忙な毎日で、奥様をはじめ、お子様、お孫様たちとゆっくりされる時間が、十分にはなかったことと思います。でも、先生の温かいお顔・お姿は、いつまでもご家族のお心の中にあり、私たちの胸の中にあります。

これからは、安らかな「とき」を、お迎え下さい。

平成７年12月22日

森川先生を悼む

島　　正　吾（日本産業衛生学会理事長）

謹んで、故森川利彦先生のご逝去を悼み、全国六千余名の日本産業衛生学会会員の心からなる哀悼の想いを捧げます。

先生の一生はまさに我が国の産業衛生学の歴史そのものであり、私共は今、何ものにもかえがたい学会の至宝を失ってしまいました。しかし、先生は柔和なお人柄とは逆に、事を成すには鋼鉄のような逞しい信念を以て生きてこられました。そして、おそらくは今日のこのお別れにあたって、先生の胸の中には未完成のまま残されてしまった山のような命題があったかと思います。先生、私共はその想いを間違いなく受け止めて全会員が一丸となって精進することをここにお誓い致します。森川先生、本当にお疲れさまでした。どうか安らかにお眠り下さい。

合掌

森川先生を偲んで

竹　内　康　浩（日本産業衛生学会東海地方会会長）

森川先生には学生実習の工場見学、学会や研究会の開催、地方会の運営など大変お世話になりました。お会いする度に、先生の丁寧な言葉使いや穏やかな態度に接し、先生の優しい人柄には感服しておりました。先生と同年代の東海地方の産業医には優秀で積極的な方がそろっており、日本の産業医活動をリードしてきたことは東海地方会の誇りです。その中で、森川先生は中心的な役割を果たしてこられました。これまでの産業衛生活動の成果を発展させるためには、産業医の後継者育成が重要であることを、先生から何度も伺う機会がありました。幸いにも先生方のお陰で、東海地方では新しい優秀な産業医が増え、森川先生が心を砕いておられた産業医の活動の継承と発展は大いに期待されております。先生のご遺志を継いで、東海地方会のみならず日本及び世界の産業衛生の発展に、会員とともに努力する所存です。最後に東海地方会を代表して森川先生のご冥福をお祈り致します。

会員の表彰

中災防緑十字賞　真鍋　貴（岐阜県労働基準協会連合会）

産業保健の道

Maria Beatriz Guinto Villanueva

私はフィリピン大学のCollege of arts and sciencesを卒業後、Ramon Mag Saysay記念医科大学で学びました。クリニカルトレーニングをして1989年に医師の資格をとり、すぐにフィリピン労働安全衛生センターで働きはじめ、産業保健とその研究に魅力を感じていきました。そこで、1993年3月に名古屋大学の大学院に入学し、名大衛生学教室の竹内先生、産業医学総合研究所の斎藤先生、久永先生、城内先生のもとで、産業保健全般についてはもちろんのこと人間工学やバイオロジカルモニタリングについて研究してきました。

今年の3月に学位をとることができたら、フィリピンにかえります。日本で勉強したことがフィリピンの労働者の安全衛生に役にたち、そしてフィリピンの経済がよくなるように願っています。

フィリピンの産業保健の専門家でタガログ語、英語、日本語ができ、かつ、フィリピンと日本の労働衛生について、大変によく勉強をされてきました。
フィリピンにある日本企業にとっても、何か問題があった時大変たよりになる人材です。何かご相談したい事がありましたら、産医研の久永直見、城内博までご連絡下さい。

これからの諸行事予定

第11回　産業医、産業保健婦、産業看護婦衛生管理担当者のための研修会

日　　時　1996年2月9日㈮　10：00～16：40
場　　所　産業技術記念館　大ホール
会　　費　8,000円
定　　員　300名
講　　演　「現代社会と人間」―人類史的観点から―
　　椙山女学園大学学長　江原　昭善
講　　演　「職場における腰痛予防対策について」
　　関西医科大学衛生学教授　徳永　力雄
パネルディスカッション　「健診結果の保健指導をめぐって」
座　　長　杉浦静子（三重県立看護短期大学教授）
　　後藤円治郎（住友軽金属工業㈱産業医）
パネリスト
肥満対策　小川　斉（愛知医科大学運動療育センター講師）
高脂血症　清島　満（岐阜大学医学部臨床検査医学講師）
肝機能異常　福沢嘉孝（愛知医科大学第一内科学教室助手）

第9回振動障害研究会

日時：1996年2月17日㈯　午後1時30分～4時30分
場所：勤労会館・第一視聴覚室（2階）（鶴舞公園内）
1．全身性強皮症の発症と振動暴露との関係
　　藤田節也（岐阜大学・医・衛生）
2．岐阜県飛騨地方の民有林労働者における自覚症状と仕事の支障との関係
　　井奈波良一（岐阜大学・医・衛生）
3．Health condition of green tea workers
　　S.M.Milbod（岐阜大学・医・衛生）
4．振動感覚閾値測定装置の国際動向（ISOでの検討状況）
　　榊原久孝（名大・公衛）・前田節雄（近大・理工）
5．第7回国際手腕振動学会（95年5月9－12日、プラハ）報告
　　松本忠雄（名古屋市立大学・医・公衛）

第10回健康度評価研究会

日時　平成8年3月1日㈮　午後2時～5時
場所　愛知厚生年金会館地下会議室　鳳凰の間
　　名古屋市千種区池下町2－63（地下鉄東山線池下駅1分）
　　☎052-761-4181
テーマ　「健康障害判定のいろいろな基準」
司会　入谷辰男（トヨタ自動車産業医）
(1)当社における健康診断システムについて
　　杉浦康夫（トヨタ自動車安全衛生推進部）
(2)臨床医学における各種診断基準と産業保健における健康障害判定基準への応用
　　飯田英男（健康管理コンサルタント）
参加費　無料

第37回産業精神衛生研究会

第40回　職場精神衛生研究会
日　時：平成8年3月8日㈮
場　所：ルブラ王山（地下鉄東山線池下駅東）
参加費：5,000円（申し込みは同封の用紙をご利用下さい）
9:45-12:15　海外赴任者のメンタルヘルス
　　津久井要（横浜労災病院、海外勤務健康管理センター）
　　職場における女性のメンタルヘルス
　　阪　永子（東海銀行・カウンセリングセンター）
　　メンタルヘルスに果たす管理職の役割
　　林　剛司（日本健康管理センター）
　　中小規模事業所におけるメンタルヘルス
　　廣　尚典（NKK鶴見保健センター）
　　欧米における職場メンタルヘルスの最近の動向
　　藤田　定（刈谷総合病院神経科）
14:00-14:40　「明るく楽しい職場をめざして」
　　福渡　靖（順天堂大・医・公衛）
14:40-17:00　シンポジウム「職場のストレス・マネジメント」
　　メンタルヘルスにおける職場のストレスマネジメントの意義
　　夏目　誠（大阪府立こころの健康総合センター）
　　組織・職務設計のあり方
　　渡辺直登（慶応義塾大・経営管理研究科）
　　職場環境・作業のあり方
　　小野雄一郎（名大・医・衛生）
　　管理者教育のあり方　－積極的傾聴法の視点から－
　　三島徳雄（産医大・産生研・精神保健）
　　ケア・サポートのあり方
　　中村久美子（松下電器産業カウンセラー）

第9回職業性肺疾患研究会

日　　時　平成8年3月9日（土）　14:00～16:30
場　　所　名大医学部　鶴友会館2F大会議室
講　演
「慢性気管支炎およびその関連疾患の診断・治療と生活指導」
　　棟方　英次（藤田保衛大第2病院内科）
討　論
「職域における喫煙対策・禁煙指導のあり方とその問題点について」
1．職域における喫煙対策・禁煙指導の事例（紹介）
産業医の立場から　大久保浩司（東芝四日市）
産業看護職の立場から　小川　京子（名古屋市職員健管センター）
2．「禁煙ガム」を用いた禁煙教室の実際
　　滝沢　茂夫（聖隷健診センター）

会員の異動

入会

愛知　足立はるゑ（稲沢市民病院）、垣鍔　直（国立豊田工業高等専門学校）、相野長孝（歯科アイノ）、金原享子（きんぱら歯科）、荒川精一（きんぱら歯科）、朱　善寛（名古屋大学医学部公衆衛生学）、伊藤光世（東海銀行健康管理センター）、金原匡志（きんぱら歯科）

静岡　西影裕文（掛川市立総合病院）、黒柳忠正（クロヤナギ医院）

三重　前田郁子（保健婦）

退会

愛知　船越宏洸（元王子製紙）、森川利彦（三菱電機名古屋製作所）（御逝去）

岐阜　下井勝子（カヤバ工業㈱岐阜事業所）

三重　高橋　務（近畿健康管理センター三重事業所）

地方会理事会

平成７年度第３回東海地方会理事会

日　時：平成７年９月５日㈫　14:00～15:20

場　所：名古屋大学医学部鶴友会館２Ｆ大会議室

出席者：31名　委任状　43名

１．報告事項

⑴事務局からの連絡事項（柴田）

⑵本部からの連絡事項（島）

⑶平成７年度東海地方会総会並びに研修会収支報告（加藤（保））

⑷労働衛生工学会及び作業環境測定研究会（小森）

２．協議事項

⑴地方会ニュース35号（吉田）

⑵役員改選・選挙管理委員会（山田）

⑶平成７年度東海地方学会（伊藤）

⑷第11回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会（五藤）

⑸地方会関連学会・研究会（柴田）

⑹その他

平成７年度第４回東海地方会理事会

日　時：平成７年10月31日㈫　14:00～15:20

場　所：名古屋大学医学部鶴友会館２Ｆ大会議室

出席者：29名　委任状　50名

１．報告事項

⑴事務局からの報告事項（小野）

⑵本部からの報告事項（島）

⑶地方会役員選挙（山田）

⑷平成７年度東海地方会（伊藤）

⑸地方会ニュース35号（吉田）

２．協議事項

⑴第11回産業医・産業保健婦・産業看護婦・衛生管理担当者のための研修会（五藤）

⑵地方会関連学会・研究会

⑶東海地方会総会・研修会（石川）

⑷中央役員選挙（竹内）

＊**訂正**　第35号の11ページ左欄４行目は以下のようにご訂正下さい。ご迷惑をおかけしました事をおわび申し上げます。
（誤）エポキシ樹脂に原一郎先生　（正）大阪府勤労者健康サービスセンターの原一郎先生

編集後記

阪神大震災から一年がたちました。昔から「災害は忘れたころにやってくる」と言われていますが、最近は忘れないうちにやってくるような気がします。災害は①自然災害②人為災害③混合型災害に分けられますが、自然災害のうち日本を含めて世界で一番多い災害は何か知っていますか？地震でも火山噴火でもなく、最も多いのは洪水が正解です。今号のニュースでは、大阪ガス岡田先生と川崎重工兵庫の横田先生による震災に対する産業保健チームの役割の話が掲載されています。東海大地震が近いと言われ続けていますが、常日頃から災害や危険に対する備えがあれば憂いも少なくなります。この一年、何の災害も起きない平和で穏やかな年でありますように。

山田　琢之

次回発行　平成８年５月１日
編集責任者　吉田　勉（聖隷健診センター）
編集委員（五十音順）
井谷　徹（名市大）　岩井　淳（全日本労働福祉協会）
大久保浩司（東芝四日市）　加藤　保夫（岐阜県産業保健センター）
鎌田　隆（本田技研浜松）　後藤　猛（労働衛生コンサルタント）
五藤　雅博（旭労災病院）　榊原　久孝（名大）
小野雄一郎（名大）　清水　高子（清水ヘルスケア事務局）
高柳　泰世（本郷眼科）　谷脇　弘茂（藤田保衛大）
松本　忠雄（名市大）　山田　琢之（愛知医大）

財団法人　愛知健康増進財団
会　長　松永亀三郎
理事長　赤塚邦夫
診療所長　小倉幸夫
名古屋市北区清水1-18-4　TEL(052)951-3331

健康をみつめ、明日の地域医療を考える
医療法人　愛知集団検診協会
愛知健診所
〒496　津島市藤里町2-3-1
TEL　(0567)26-7328番
FAX　(0567)26-7994番
FOR HEALTH,FOR GOOD LIFE

AMANO　天野産業株式会社
トータルヘルス研究所
代表取締役　宮本政雄
〒461　名古屋市東区泉二丁目21番11号
TEL(052)931-0102（代表）

労働大臣認可
社団法人　オリエンタル労働衛生協会
理事長　大武八郎
名古屋市千種区今池一丁目８番４号
TEL（052）732-2200

謹賀新年

平成八年元旦

●トータル・ヘルス・プロモーション・プラン
(T・H・P)
● 作業環境測定 ● 各種検診業務
財団法人 **岐阜県産業保健センター**
理事長 籠橋久衛
多治見市東町1丁目9番地の3
TEL(0572)22-0115

労働大臣許可
KKC 財団法人 近畿健康管理センター
附属労働衛生総合研究所　附属公益事業推進室
附属予防歯科保健指導センター　KKCウエルネス倶楽部
三重事業部 〒514 津市神戸165 TEL(0592)25-7426㈹
名古屋事務所 〒464 名古屋市千種区2-15-12 TEL(052)735-0821 ワークビル4F

(財)日本予防医学協会
健康社会フォーラム名古屋談話室
〒461 名古屋市東区代官町39-18 日本陶業連盟ビル内
TEL(052)931-0526 FAX(052)932-7092

医療法人 **光生会病院**
豊橋市吾妻町137番地

(社福) 聖隷福祉事業団
聖隷健康診断センター
所長 臼田多佳夫
〒430 浜松市住吉町2-35-8 TEL(053)473-5501

財団法人 芙蓉協会
聖隷沼津病院
院長 積惟貞
聖隷沼津病院健康診断センター
所長 力石務
〒410 静岡県沼津市本字下一丁田898-1
TEL(0559)62-0932(代表)・62-9882(センター直通)

(社福) 聖隷福祉事業団
聖隷予防検診センター
所長 水野武雄郎
〒433 浜松市三方原町3453 TEL(053)439-1111

社団法人 **瀬戸健康管理センター**
理事長 成田鈺一
〒489 瀬戸市共栄通1丁目48番地
TEL(0561)82-6194

健診健康総合サービス
(財)全日本労働福祉協会東海支部
支部長 福島忠良
〒457 名古屋市南区柵下町2-4 TEL(052)822-2525

GHL 社団法人 加茂医師会立
総合保健センター
〒505 美濃加茂市西町7丁目169番地
TEL(0574)26-1718 FAX(0574)25-0480

(医) 宏潤会 大同病院
理事長 石原晃
〒457 名古屋市南区白水町9番地 TEL(052)611-6261

医療法人 九愛会
中京サテライトクリニック
理事長 黒田義孝
〒470-11 愛知県豊明市西川町島原6番地の7
TEL(0562)93-8225㈹ FAX(0562)93-0938

医療法人 東海産業医療団
中央病院
健康管理センター
〒476 東海市荒尾町丸根1番地
TEL(052)603-2271 FAX(052)603-5122

(財)東海検診センター
理事長 宮崎勘治
診療所長 斉藤俊二
〒410 沼津市新沢田町8-7 TEL(0559)22-1157
FAX(0559)23-5078

(医) 豊昌会
豊田健康管理クリニック
理事長 加藤昌平
〒473 豊田市竜神町新生155番地 TEL(0565)27-5550

名古屋市医師会協同組合
名古屋市医師会健診センター
理事長 高澤嘉人
〒461 名古屋市東区葵一丁目4番38号
TEL(052)937-8460 FAX(052)937-8402

医療法人 名翔会
名古屋セントラルクリニック
〒457 名古屋市南区城下町3丁目14番地
TEL(052)821-0900㈹ FAX(052)824-0655

医療法人
日本生命ヘルスコンサルタント
所長 原爽
〒450 名古屋市中村区名駅南1-27-2
日本生命笹島ビル6F
TEL(052)582-0751

社団法人
半田市医師会健康管理センター
所長 中野駿児
〒475 半田市神田町1-1 TEL(0569)27-7881

(財)三河保健予防協会
理事長 由利卓也
〒442 豊川市大堀町77 TEL 05338-6-1515